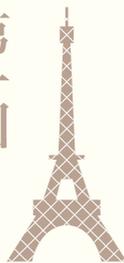


パリのほほえみ

第一回



すぎょうら ゆみ
杉浦 弓

清泉女子大在学中に航空会社に入社し、以来四半世紀にわたり国際線客室乗務員として活躍。英・仏・韓国語に堪能。現在、エールフランスを退職中し、乗務経験を生かし輸入車ディーラーのマナー研修を担当。

～“弓”が世界に放たれた時～

セーヌに架かる橋から川の流れを見下ろしながらよく考えます。日本から遥か1万キロも離れたこの美しき都に20年もの間、根を張るようになったご縁の不思議さを。私は、パリをベースに世界を旅してまいりました。

私に人生の転機が訪れたのは、大学3年生の初秋です。ふと手にしたJapan Times紙Korean Air客室乗務員募集の記事を見つけ、まだ就職活動には1年早かったのですが、家族に内緒で応募しました。

数週間後、書類審査合格と1次面接の通知が届きました。当時、東京東五反田で同居していた姉と兄は、縁のない航空会社からの速達を不審に思い、開封していました。

何も知らずに帰宅すると、封の開いた速達を手には、姉と兄は玄関で仁王立ちです。

「私は、スチュワーデスになりたいの!」

兄は「頑張れよ」と理解してくれ、姉は、面接用に指定された季節外れの白い半袖ブラウス選びを手伝ってくれました。今でも、この時の二人の優しい“ほほえみ”を忘れることはできません。

こうして現役女子大生スチュワーデスが誕生しました。黒姫から放たれた弓は、その後、四半世紀以上世界を回ります。方向性を見失わず、真っ直ぐに突き進むことが出来たのは、父、母、そして姉、兄のお陰といつも感謝しています。その兄とは黒姫和漢薬研究所社長、狩野土です。姉は健康生活舎社長、狩野万葉。

同級生と共に卒業した後、国営フランス航空に転職し、第二の故郷、パリに根を下ろしました。万国共通、“ほほえみ”のパスポートを持って。

続く

新刊 自灯明 発刊のご案内



母がこの世を去り、早いもので4年の月日が過ぎようとしています。父が母の病室の片隅で編集していました。今でもその光景が、瞳の奥に焼き付いています。東京代々木生まれの母は、えんめい茶創業者の父と二人三脚で志を持ち、通信販売の基礎を

立ち上げた。そして、私に不安なときに私にたずねるあなたは、いまほほえんでいますか？と

あとがき

この度「えん通信」を8年ぶりに復活発行することができました。2007年2月に父、10月に母を相次いで見送り無力感に襲われ、その後母の後を継ぎ社長に就任致しました。その中で多くの方との出会いやご縁により励まされ、自分を見つめ反省と感謝の中生かされていく事に気づきました。永田社長は20年の「ほほえみ読本」の読者であり、倫理法人会の恩人でもあります。桑野



健康生活舎フォーラムえん
えん通信 編集長
かのう まよ
狩野 万葉

先生は熱く医療を語る、武道家熱血医師です。土井社長は心友であり同志であり尊敬する師です。長野にこの方がいてくれたお陰で成長できました。そして弟土妹弓と共々に両親の念いを胸に乗り越えられました。今回皆様のお力で発行する運びとなり、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。合笑。